

令和4年度 年間指導計画及び具体的な評価の方法	2年 社会科（歴史的分野）	観点別学習状況 評価の観点	観点番号
		知識・技能	1
		思考・判断・表現	2
		主体的に学習に取り組む態度	3

月	指導事項区分		配 当 時 間	指導内容 主な評価規準	観点 番号	具体的な評価の方法
	単元	節				
4月 5月	中世 武家政権の成長 と東アジア	人々の結びつきが強まる社会	4	《指導内容》 ・14世紀後半は、日本では南北朝の争乱があり、東アジアでは倭寇の活動がさかんになり、中国では元のあとに明が、朝鮮半島では高麗のあとに朝鮮が建国されるという激動の時期であったという共通点に気づかせる。 ・日明貿易によって大量の銅銭が輸入され、国内の貨幣経済の発達を促したことについては、次節の学習と関連させて気づかせる。 《評価規準》 ① 日本(室町幕府)・明・高麗(朝鮮)・倭寇の関係を、政治的な要求や貿易品名(日本の輸入品としては生糸や絹織物、銅銭など)などの経済的な関係を含めて、図を用いて適切にまとめ、理解できる。 ② 明を中心とした東アジアの伝統的な国際関係に日本が組み込まれ、足利義満が明と勘合貿易を始めた理由を考察し、「朝貢」などの言葉を用いて適切に表現している。	① ② ③	①社会科における基礎的・基本的な知識・理解が定着しているか、また、資料を活用して理解できているかを、テスト等を活用して評価する。 (単元テスト等)
6月 7月		大航海時代によって結び付く世界	5			②社会的事象に対して、自分の考え方をまとめられるかを、テスト等を活用して評価する。 (単元テストや課題等の発表内容等)
8・9月	近世 武家政権の展開 と世界の動き	戦乱から全国統一へ	5	《指導内容》 ・江戸幕府の政治の特色について理解し、中世の武家政治との違いに着目して考察する。 ・江戸幕府の成立と大名統制については、幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気づく。 ・農林水産業や手工業、商業などの産業や河川・海上交通、街道が発達したことについて、身近な地域の特色を生かした事例を選んで理解する。 ・大阪・京都などの都市を舞台に、経済力を高めた町人を担い手とする文化が形成されたことを理解できる。		③社会的事象に対して、主体的に追究できるかを評価する。 (単元テストや定期試験、課題等への取組の姿勢等)
		武士による全国支配の完成	5			
		天下泰平の世の中	5			
		社会の変化と幕府の対策	4	《評価規準》 ①ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつくられたことを理解できる。 ①江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解できる。 ①産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解できる。 ①社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解できる。 ②交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②近世の日本を大観して、時代の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
10月 11月 12月	近代（前半） 近代国家の歩み と国際社会	欧米諸国における「近代化」	5			
		開国と幕府の終わり	5	《指導内容》 ・工業化による社会の変化という観点から、イギリスなどにおける産業革命などを取り上げ、これを通して資本主義社会が成立したことや労働問題・社会問題が発生したことに気づかせる。 ・産業革命の進展に伴って、欧米諸国が新たな工業製品の市場や工業原料の供給地を求めてアジアへの進出を強めたことに着目する。 ・欧米諸国のアジア進出と関連づけて取り扱い、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響を理解し、それが明治維新の動きを生み出したことに気づかせる。 ・富国強兵・殖産興業政策の下に新政府が行った、廃藩置県、学制・兵制・税制の改革を取り上げ、近世から近代への転換のようすを、近世の政治や社会との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できるようにする。		
		明治政府による「近代化」の始まり	4			
		近代国家への歩み	5			
		帝国主義と日本	5			
		アジアの強国の光と影	4	・欧米諸国から取り入れた制度や文化の影響で、社会のようすや人々の生活が大きく変化したことに気づかせる。 ・欧米諸国のアジア進出と関連づけて取り扱い、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響を理解し、それが明治維新の動きを生み出したことに気づかせる。 ・富国強兵・殖産興業政策の下に新政府が行った、廃藩置県、学制・兵制・税制の改革を取り上げ、近世から近代への転換のようすを、近世の政治や社会との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できるようにする。 ・欧米諸国から取り入れた制度や文化の影響で、社会のようすや人々		

				の生活が大きく変化したことに気づかせる。		
1 月	近代（後半） 二度の世界大戦 と日本	第一次世界大戦と民族独立の動き	5	《評価規準》 ①欧米諸国における産業革命や市民革命，アジア諸国の動きなどを基に，欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解できる。 ①開国とその影響，富国強兵・殖産興業政策，文明開化の風潮などを基に，明治維新によって近代国家の基礎が整えられて，人々の生活が大きく変化したことを理解できる。 ①自由民権運動，大日本帝国憲法の制定，日清・日露戦争，条約改正などを基に，立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに，我が国の国際的な地位が向上したことを理解できる。 ①我が国の産業革命，この時期の国民生活の変化，学問・教育・科学・芸術の発展などを基に，我が国で近代産業が発展し，近代文化が形成されたことを理解できる。 ②工業化の進展と政治や社会の変化，明治政府の諸改革の目的，議会政治や外交の展開，近代化がもたらした文化への影響，経済の変化の政治への影響，世界の動きと我が国との関連などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ②近代前半の日本と世界を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③近代前半の日本と世界について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
2 月		高まるデモクラシーの意識	4	《指導内容》 ・第一次世界大戦の背景とその影響，民族運動の高まりと国際協調の動き，我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に，第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと，大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解する。 ・経済の世界的な混乱と社会問題の発生，昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き，中国などアジア諸国との関係，欧米諸国の動き，戦時下の国民の生活などを基に，軍部の台頭から戦争までの経過と，大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。 ・戦争に向かう時期の社会や生活の変化，世界の動きと我が国との関連などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現させる。 ・近代後半の日本と世界を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し表現する。 ・近代後半の日本と世界について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。		
3 月		戦争に向かう世論	5	《評価規準》 ①第一次世界大戦の背景とその影響，民族運動の高まりと国際協調の動き，我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に，第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと，大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解できる。 ①経済の世界的な混乱と社会問題の発生，昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き，中国などアジア諸国との関係，欧米諸国の動き，戦時下の国民の生活などを基に，軍部の台頭から戦争までの経過と，大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解できる。 ②戦争に向かう時期の社会や生活の変化，世界の動きと我が国との関連などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ②近代後半の日本と世界を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③近代後半の日本と世界について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		